

意見	回答	取組状況
<b>1 田柄特別養護老人ホームにおける共生型障害者短期入所事業について</b>		
共生型障害者短期入所について、予約受付の進捗はいかがか。	本事業はショートステイの空きベッドを利用して行います。利用予約については、相談支援事業所と協議しながら実施していきます。	令和3年3月より事業が開始されました。基幹型の支援事業所と調整しながら対象となりうる方の情報をいただき、個別にこの事業と施設の状況について説明し、ご理解いただけた方と契約して予約者として登録しています。現在は、契約を予約の要件としており、利用実績を積み重ねている状況となっています。空床型のために事前に居室を確保したうえで毎月次月の調整を行っている状況です。10月末までの利用者は、3名の対象者に延べ20日間の実績があります。
事業開始に向けて、周知はどのようにしているか。	ショートステイの利用状況に鑑み、相談支援事業所と連携して予約受付を進めています。	福祉事務所を通じて、基幹型の相談支援事業所に対して、この事業の意義と受け入れできる対象像について周知いただきました。そのうえで、該当する方についての情報をいただけるように依頼しました。空床型のため、事前調整しなければ希望の予約が取れないため、現状は契約できた方を対象に受け入れしています。新規の利用者は基幹型の相談支援事業所を通じて受け入れることを原則としており、広く周知していくことは行っていません。
<b>2 施設運営(経費削減)について</b>		
効率的な運営のためにどんな取り組みをしているのか。	施設の規模や利用状況に合わせて、勤務時間を調整するなど、施設ごとに効率化を図っています。	例えば富士見台の場合、令和3年4月より介護士の夜勤体制を「8時間夜勤3名」とし昼間の体制を厚くしました。委員会活動等の充実、入浴業務の効率化、有給やワークライフバランスの取りやすい労働環境の実現と共に、子育て世代や壮年層の介護士に対する働きやすさへの効果が期待できます。他の特養でも8時間夜勤を主軸に調整していきます。
<b>3 新型コロナウイルス感染症について</b>		
施設内で、新型コロナウイルス感染症による集団感染が発生した際に、法人内での職員の応援体制はどのように考えているのか。	最低限の生活環境の確保に努め、まずは施設内でより効率的な人員配置など工夫した上で、施設間でのフォロー、法人本部との連携等を考えています。	集団感染が発生した場合の対応は、施設内でフロア間の調整を行います。発生したフロアは勤務形態を固定することで、勤務変更がしやすい環境にし、最低限の生活環境の確保に努めます。また、法人と毎日状況確認を行い、適宜対応方法の検討・決定を行います。
<b>4 特別養護老人ホーム待機者について</b>		
ベッドに空きが出たときの次の入所者選定について、どんな工夫をしているのか。	入居者の選定にあたっては、練馬区特別養護老人ホーム入所基準に則って進めていますが、待機期間の短縮のため、空きベッドの有無に限らず日頃から入所必要度の高い方を把握するなど、適正な名簿管理に努めております。	入所基準に則り、待機者名簿から入所必要性の高い方について、ベッドに空きが出る前に面接調査と入所判定会議を行い、待機期間短縮に努めています。
<b>5 コロナ禍での面会について</b>		
コロナ禍での面会について、どのような方法をとっているのか。	Web面会として、LINEなどの無料メッセージアプリを利用し、自宅と施設(居室)または施設の端末を貸し出し、施設のロビーと居室とを繋いで面会していただいています。面会室でのパネル越しの面会や、窓越し面会として、ご家族がベランダに居て、廊下または居室の入所者とガラス窓越しに面会する方法を取っている施設もあります。いずれも東京都の感染状況を踏まえ対応しています。	東京都が「緊急事態宣言」や「まん延防止等重点措置」を発令している期間、または施設内で発症者がいる場合は、LINE等のWEB面会で対応していました。緊急事態宣言等が発令されていなく、施設内でも感染者がいない時期は、会議室でのパネル越しやベランダ等での窓越し面会とLINE等の面会を併用しています。
<b>6 認知症対応型通所介護(認知症デイサービス)について</b>		
認知症対応型通所介護(認知症デイサービス)の利用率の向上のため、PR等を行っているのか	認知症デイサービスは、一般の通所介護に比べて規模的に小さく、少人数ゆえにできる手厚いサービスなどが特色です。介護負担の軽減としても重要であり、区と連携してPRに努めています。	認知症ケアの外部アドバイザーによる事例検討会開催や環境づくりの取り組みなど、認知症ケアの質の向上を図っていることを認知症家族の会、地域住民、介護支援専門員などに情報発信し、地域の中で認知症ケアの中核施設となるよう努めています。地域に認知症デイの特色も浸透してきており、介護支援専門員から他デイでは対応困難なお客様をご紹介いただくこともあります。